

支援のアイデア①

障害特性に基づいた支援

この時間で学びたいこと

- 本人の特性に基づいた支援を整えることにより、強度行動障害に対して予防的な支援を行うことが可能になります。
- この時間はまず、予防的な支援のポイントをまとめます。キーワードは「構造化（環境を整えること）」です。
- しかし、支援を本人の状態像に応じてリニューアルしていかないと本人とのズレが生じて支援が停滞してしまうこともあります。また、不幸なことに強度行動障害の様相を表出してしまう場合もなくはありません。その場合でも、まずは、改めて今までの支援を見直し、さらにブラッシュアップすることで、支援のテコ入れを図ったり、強度行動障害からの脱却をめざしたりすることになります。これは「再構造化（環境の補整や補強）」ということもできるでしょう。具体的な事例を映像を交えて紹介していきます。
- 自閉症の特性をベースにした基本的な支援の在り方を理解することが、この時間のテーマです。

それぞれの地域で実施するときに

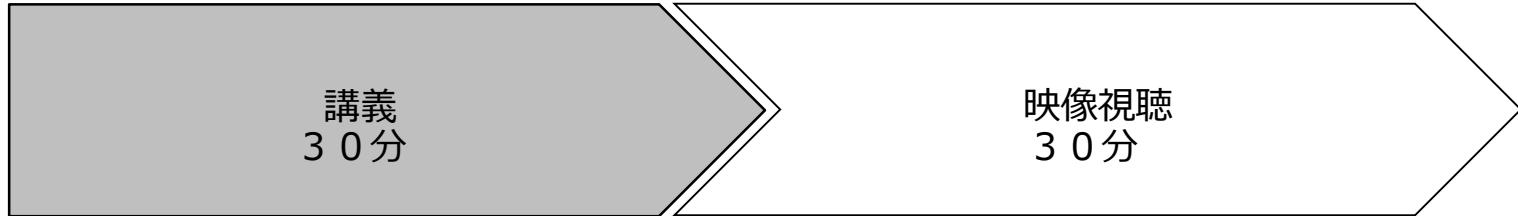
指導者の方へ

- 自閉症の特性をベースにした基本的な支援の在り方について、このテキストでは「構造化（環境を整えること）」「再構造化（環境の補整や補強）」という言葉を使っていますが、要は「その人にとってわかりやすい情報やツールを整える」という意味を示すものであれば、適宜、いい言葉を選択してください。
- 好事例を含めて、ひとつの講義として構成することもできますが、可能な限り映像を提供するようにしてください。
- その地域での優れた実践を好事例として紹介するのが望ましいことですが、下記のDVDの中にも、支援の実例が示されていますので、参考にしてください。

朝日新聞厚生文化事業団「自閉症の人が求める支援」

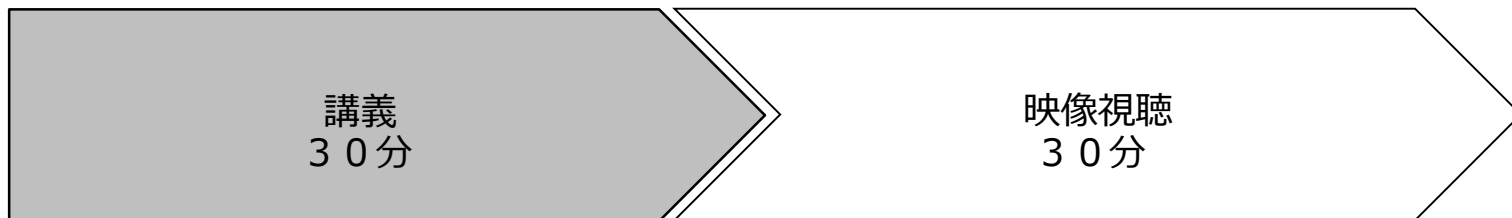
http://www.asahi-welfare.or.jp/purchase/detail/jiheisho_shien.html

この時間の流れ



- 最初の30分は、自閉症の特性に基づいた基本的な支援の在り方について、強度行動障害を予防するための支援と強度行動障害から脱却するための支援という視点で整理します。
- 残りの30分は、主に予防的な観点からの支援事例を映像を交えて紹介します。

自閉症の特性に基づいた予防的な支援



- 自閉症の特性に基づいた予防的な支援の在り方について「構造化（環境を整えること）」というキーワードを掲げます。
- さらに、「時間」「場所」「やり方」「やりとり」の4つの視点で整理し、まとめていきます。

支援の道筋 その1

- 支援においては次のような道筋を大切にします。

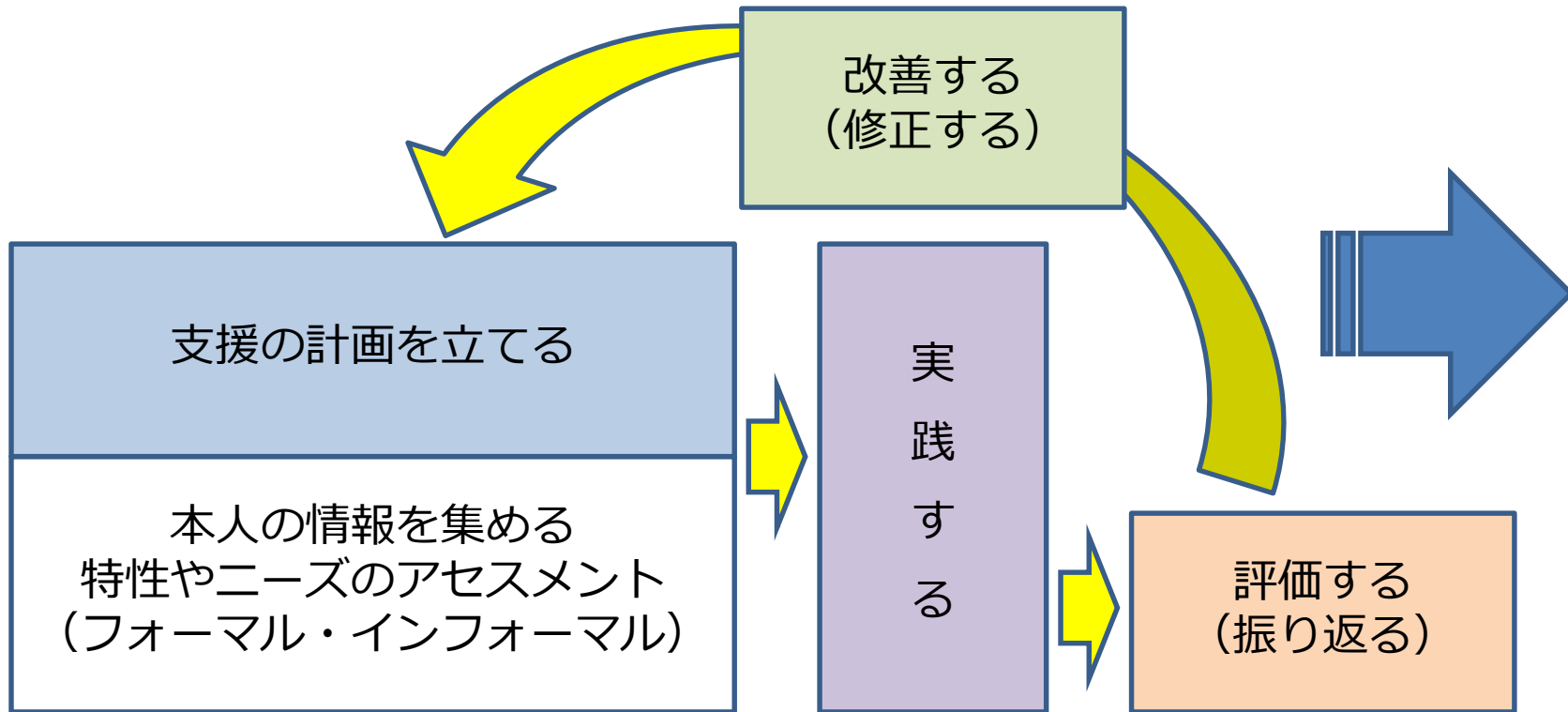
- ①その人の特性や人生のニーズを把握する
- ②その人の特性に配慮した構造化を整える
- ③その人の人生のニーズに沿った計画と実践、評価や改善のサイクル（PDCAサイクル）で、よりよい人生へと向かう
- ④支援が停滞したり強度行動障害の様相が現れたりしたときには、改めて環境を見直し「再構造化（環境の補整や補強）」をする

この講義では、②についてお話しします。

支援の道筋 その2

予防的で基本的な支援をベースに、
プラスアルファの取り組みをするが、そこにもPDCAサイクルはある

強度行動障害の支援



予防的で基本的な支援

よりよい人生へと向かう

目で見えてわかる支援が基本

- なぜか？
 - 目に見えない意味を理解したり思いを伝えたりすることに苦手さがあるから
 - 複数の情報を処理することに苦手さがあるから
 - 雑多な環境の中から必要な情報に目を向けることに苦手さがあるから
- そのため
 - この人たちにとってわかりにくい状態にある情報環境を整理し、一人一人にわかりやすい形で届ける必要がある
 - それが「構造化（環境を整えること）」
 - それがこの人たちの学習スタイルに合わせた支援
 - それが合理的配慮

何をどう構造化するのか

- 構造化したい6情報
 - 「いつ」「どこで」「何を」「どのくらい」
「どうやって」「次は」
- 6情報を4つの視点に整理して構造化
 - 時間の視点（生活の見通し）
 - 場所の視点（活動との対応・刺激の整理）
 - 方法の視点（やり方・ヒント・着目・終わり・次）
 - やりとりの視点（コミュニケーションツール）

時間の視点

- どんな流れで生活するのかという理解を助ける。
- 言われるがまま（または好き放題）ではなく、自分で適切に情報をキャッチし行動できることを大事にする。

場所の視点

- この場所では何をするのかという理解を助ける。
 - 整理整頓は基本中の基本
 - エリア（境界）を明確に
 - 場所と活動とが 1 対 1 対応できれば理想だが…
- 負の刺激に配慮するために空間を整える。
 - 負の刺激を統制・制御（見せない・感じない）

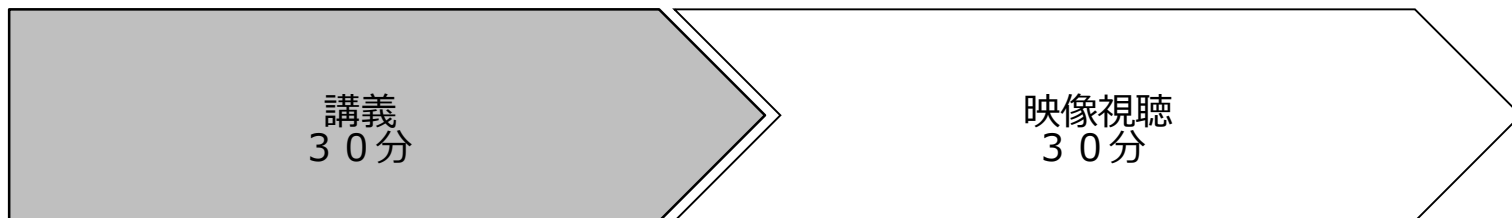
方法の視点

- 「何を」「どのくらい（どうなれば終了か）」
「どうやって」「次は」という理解を助けるために
 - やることの内容や数や順序が違ってても進め方は同じという“システム”を提示する。
- 見てすぐにわかる情報を提示するために
 - 必要な情報に注目しやすくする工夫
 - 見るだけで何をすれば良いかがわかる
 - 情報や材料が見やすい・扱いやすい

やりとりの視点

- 伝え合いわかり合うコミュニケーションのために
 - 表出言語の有無にかかわらず、
伝えるタイミングが分からない
適切なセリフが分からない
他者に働きかけることで問題解決を図るという
方法があることを知らない 等々
 - コミュニケーションの手続きを視覚的に示し、
コミュニケーションの成功体験をお膳立てする
サポートが必要

自閉症の特性に基づいた実際的な支援



- 自閉症の特性に基づいた予防的な支援を展開しても、うまくいかないことは当然出てきます。そんなときは、まず「再構造化（環境の補整と補強）」に取り組んでみましょう。改めて今までの支援を見直し、さらにブラッシュアップすることで支援のテコ入れを図ったり、強度行動障害からの脱却をめざしたりすることになります。
- では、そうした「再構造化（環境の補整と補強）」を行っている具体的な事例を映像を交えて紹介します。